

Title	グローバル競争下での研究開発戦略-医薬品産業の事例をもとに-
Sub Title	
Author	高橋健(Takahashi, Takeshi) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1352号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1352

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

高橋 健
(エーザイ株式会社)

主査 矢作 恒雄
副査 嶋口 充輝
田中 滋

所属

矢作 恒雄 研究室

グローバル競争下での研究開発戦略 —医薬品産業の事例をもとに—

日本の医薬品産業の現状を分析してみると、今日ほど研究開発の強化が切実に希求されている時代はない。しかしながら売上高の鈍化、収益の減少により研究開発投資に限界がきている。このように限られた研究開発投資を有効に、つまり効率的に利用し得るかが今迄以上に重要になってきている。

この様な状況の中で、どの研究開発テーマ、領域、疾患を優先化すべきかの正否がその企業の発展か衰退かを決定づける大きな要因である。

上記の理由から本論文では製薬企業9社にインタビューを行ない、研究開発テーマ、領域、疾患の絞り込み（重点化）方法を構築し、提言した。以下に具体的な方法を示す。

- (1) 総合的にどの研究開発テーマ、領域、疾患を優先化すべきかは、優先順位の高い順に革新性（独創性）、市場規模（市場性）、差別化の可能性、市場の成長性といった評価項目を使って行なう。
- (2) 評価表を使って候補に挙がっているテーマ、領域、疾患を5段階評価する（評点のプロット）。
- (3) 集計表を作成し、総合得点（評点×ウェイト）を合計する。最終的に総合得点が一番高いテーマ、領域、疾患を選定する。

また、今後日本の製薬企業が世界の中で生き残るための研究開発戦略は、研究開発領域を絞り込み、得意な領域・技術を持ち、そこに集中的に資源を投入することである。